

5月1日の夜に栄進高校を出発し、翌2日の朝に能登町へ到着しました。現地では、植物園班と神社班の二班に分かれて災害復興作業を行いました。私は神社班に同行し、さらに昼食準備組と作業組に分かれたうち、作業組として活動しました。

神社は石段を上った高台にあり、重機が入れない立地でした。さらに当日は雨天で、雨に打たれながら、生徒たちと協力して、瓦礫や倒壊して破損した物をバケツリレーでトラックに積み込む作業を行いました。

昼食は、NPOのボランティアスタッフの方々と一緒にいただきました。お弁当のほか、現地の方々と生徒が協力して作った豚汁もありました。豚汁は関東の味付けとは異なり、醤油と味噌を使ったさっぱりとした優しい味で、とても美味しかったです。

午後も引き続き2時間ほど作業を行いましたが、能登高校の生徒たちも駆けつけてくれました。また、東京大学の学生もボランティアとして参加しており、皆で協力して作業を進めました。

作業後には交流会が開かれ、現地の方々から当時の状況や現在の心境を伺ったり、栄進生が初めて復興ボランティアに参加した思いや、実際に現場を見て感じたことを語り合ったりしました。また、能登町の伝統的な祭りなど、その土地の文化についても学ぶことができ、非常に貴重な体験となりました。

夕方、能登町の国民宿舎で入浴し、子供達と会話を楽しみながら夕飯をいただき、その後、栄進高校への帰路につき、3日の早朝に無事学校へ到着しました。

昨年、頻繁にニュースで取り上げられていた地震と大雨による甚大な被害の影響で、多くの家屋が今も倒壊したままであり、インフラの復旧もなお途上にあります。

今回、復興ボランティアとして現地に入り、がれきの撤去など人手を必要とする作業の一部をお手伝いさせていただきましたが、地域の方々が依然として困難な状況にあることを実感しました。

それでも、住民の皆さんは前向きに復興に取り組んでおられ、その姿に心を打たれました。私たちも、今後も継続的な支援とつながりを大切にし、復興の力になればと強く感じました。